



2015年7月「叔奈川キャンパス」にて(2014年3月に開校した叔奈川小学校が、2015年の大地の芸術祭を機に、地域の価値を実践的に学ぶ学校「叔奈川キャンパス」として生まれ変わりました)。

移住者
座談会

とおかまちファンが語る 十日町市のいまとみらい

Q1
なぜ十日町市に
住もうと決めた
のですか？

佐藤さん 池谷集落で震災復興活動をしていたNGOのJENが企画した農業体験に参加したのが、十日町市との出会いです。そこで出会った人々の土に向かうことを通して生まれる生き方に感動しました。農業が、文化や人やコ

Profile

佐藤 可奈子 さん (小泉)



香川県出身。立教大学在学中、市内池谷集落の農業体験に参加。卒業後、2011年2月に池谷集落に移住、就農。移住女子フリーペーパー「chūciū」編集長。女性用農作業着の開発や若手農家集団「チャーはん」のプロデュースを手がける。十日町市農業委員。新潟日報で「きぼうしゅうらく」、全国農業新聞で「一粒万倍」を連載中。

ミニニティを育てている。限界集落であっても被災地であっても、農をつないでいけば、地域をつなげることになるんじゃないか。そういう思いで、移住と就農を決めました。

金岡さん もともと「地方でビジネスを起してみたい」「地域資源を活用して地域が存続していく仕組みを作りたい」という考えがあって、地域おこし協力隊に応募しました。松之山の黒倉にあった築92年の空家で一人住まい。担当は水沢地区の南雲集落でした。豪雪も大自然も農業も、大変というよりワクワクさせてくれましたね。他にはない地域資源だと思い、ここに住んでビジネスを始めようと思いました。

近藤さん 農業を体験してみようと軽い気持ちで池谷集落の1か月間のインターンに応募しました。本当に何も無い山の中。でも何も無いことがなんだか楽しい。人々はとてもたくましく地に足つけて生きている。人間本来の暮らしがある。とにかく感動して、十日町市から離れがたくて、「ここに住む！」と決めました。

「地域資源を活用して 地域が存続していく 仕組みを作りたい」 金岡さん

吉井さん 私はある農家との出会いと結婚がきっかけです。新潟市で勤めているときに出会った農家の人柄と生き方に魅力を感じて、

農業に興味を持つようになり、移住を決めました。時を同じくして、つぎあい始めた妻がすでに十日町市への移住と就職を決めていました。十日町市で農業をしようと決心し、その農家に相談したところ、市内で有機農業を実践している農場を紹介してもらい、研修を受けることになりました。

Profile

金岡 孝 さん(松之山黒倉)



埼玉県出身。大学卒業後、不動産営業、IT関連のプログラマーを経て、「地方での起業」を目指し、2012年4月から地域おこし協力隊(水沢地区南雲集落担当)に。任期中から「地域が存続していく仕組みづくり」を模索しはじめ、2014年に十日町市内に住む若者で構成するクリエイター集団「SPLASH」を立ち上げる。

Q2

十日町市での暮らしや仕事はどうですか？

金岡さん 2014年に、地域資源を活用したビジネスを展開するクリエイター集団「SPLASH」を設立しました。十日町の着物地や松代の井沢和紙などを

Profile

近藤 愛己 さん(川治)



滋賀県出身。2013年10月、自分で作った「~21歳計画」の中の一つ「農業を体験すること」を果たすために、池谷集落にインターンとして1か月活動。そのまま移住を決意。同年12月よりNPO法人 十日町市地域おこし実行委員会「里山プロジェクト」復興支援員として川西地区を担当。

使った灯り(照明器具)の販売や各種イベントなどを地元の人たちを巻き込みながらプロデュースしています。

忙しいけど楽しい毎日です。近藤さん 「里山プロジェクト」復興支援員として川西

地区を担当して2年目になります。最初は、なかなか受け入れてもらえない部分もありましたが、集落を回って顔を覚えてもらっていきうちに、「ありがとう」「うれし

Profile

吉井 淳 さん(仁田)



兵庫県出身。信州大学卒業後、新潟市の環境調査の会社に就職。その頃知り合った篤農家の人の生き方に感銘を受け農業に興味を持つ。市内仁田にある祖父母の家へ移住していた奥さんとの結婚を機に、移住・就農を決心。2010年から約2年間、有機農業を実践している農場で研修を受け農業を始める。

助けのおかげで、これまで農家に取り組んでくれました。地域の皆さんの温かさが十日町市の魅力の一つだと思います。今後は、自分でできることを増やしながら、農業を通して地域に恩返ししていきたいです。

「農業を通して地域に 恩返ししていきたい」 吉井さん

「農業も生き方も暮らしも、

バトンにして

次につなげたい」 佐藤さん

Q3
十日町市の暮らし、
自身の夢について
お話してください。

近藤さん 十日町市には、
変わってほしくない。もっと
集落間、世代間のつながり
を強くして、今ある十日町

市の魅力を次の時代へとつ
ないでいってほしいですね。

十日町市の人たちに学んだ
大切なことや素敵なこと
を、生まれてくる子どもた
ちに教えて、外の人たちにも
発信していきたいです。

吉井さん まずは、農業で
生計を立てていきたいで
す。そして、いろんな世代、
業種、地域の人たちがつな
がり助け合い、みんな一緒に
なって楽しめるまちになる
よう、農業を通して関わっ
ていきたいと思っています。

佐藤さん たくさんの孫と
子どもに囲まれて、しあわせ
なおばあちゃんになっていた
い。農業も生き方も暮らし
も、バトンにして次につなげ
たい。それが私の夢。そのた
めにも、子どもと一緒に農業
をやって、十日町市を愛す

る仲間を増やして、人がど
んどん集まってくるまちな
していきたいですね。

金岡さん ーターナーの私
が十日町市でやりたいこと。
それは、風を吹き込むこと
です。十日町市で新しい仕
事を起こす。ずっと暮らして
いける環境を作る。子ども
を産んで育てられる仕組み
を作る。「十日町市に帰りたい
けど、仕事がなく戻れない。
」そういう人が戻れるよ
うにしたい。つまり、Uター
ナーを増やしたいんです。U
ターナーなら、移住コストも
抑えられるし、定着率も高
い、地域への愛着もある。私
は、十日町市全体の未来を
元気にするために、若い人
たちが戻って来なくなる下
地づくりをどんどんやってい
きたいと考えています。

「十日町には変わってほしくない。

魅力を次の時代へと

つないでいってほしいですね」

近藤さん

